

## トピックス: 塩原融超電導工学研究所長 未踏科学技術協会超伝導科学技術特別賞受賞



塩原融氏の受賞記念講演

(財)国際超電導産業技術研究センター超電導工学研究所の塩原融所長は、2010年4月13日タワーホール船堀において、(社)未踏科学技術協会より超伝導科学技術賞の特別賞を受賞した。同賞は、超電導科学技術の研究に関して卓越した業績を残された方に対して贈られるものである。第14回となる今回、特別賞が塩原融氏と加速器科学分野における超電導技術の開発で貢献された山本明氏（高エネルギー加速器研究機構 超伝導低温工学センター長）の2名に授与された。また科学技術賞が6グループに授与された。特別賞の受賞記念講演の後に超伝導科学技術賞授賞式が行われた。

今回の塩原融氏の受賞理由は、イットリウム系超電導線材及びその応用開発に対する貢献によるものである。同氏は長年にわたりイットリウム系超電導線材及びその応用研究において日本の研究開発を牽引し、また米国エネルギー省の国家プロジェクト評価委員を務めるなど国際的にも広く活躍しており、今日の超電導科学技術の発展に対する貢献が極めて顕著と認められたものである。

同氏の受賞記念講演は、「イットリウム系超電導線材及びその応用開発」と題して行われた。先ず、最近の米国と日本における政治主導による地球環境問題の取り組みが紹介された。CO<sub>2</sub>を含む温室効果ガスに起因する地球環境規模の温度上昇が説明され、主要各国の2020年度時点における温暖化ガス削減目標を示した。特に日本のCO<sub>2</sub>ガス削減対策として、風力発電や送電ケーブルに対して超電導技術が貢献できることを指摘した。また2008年から実施の国家プロジェクト「イットリウム系超電導電力機器技術開発」の成果として、超電導電力貯蔵システム (SEMS)、超電導電力ケーブル、超電導変圧器及びイットリウム系超電導線材の開発状況を紹介し、線材が長さや特性の面で機器の開発を始められるレベルに到達し、この開発を受けて更なる本格的な機器開発プロジェクトへつながっていることを示した。最後に、今後も環境・エネルギー問題解決に貢献できる超電導技術を我が国の最重要政策課題解決策の一環として研究開発を進めていくことを力説し、今回の成果がISTEC会員企業と大学等に支えられたものであることを述べて締めくくった。



塩原融氏の特別賞の受賞



第14回超伝導科学技術賞の受賞者記念撮影

(編集局)

[超電導 Web21 トップページ](#)